

社会福祉法人・学校法人 イエス団



イエス団報

Jesus band news

2022/12/24

27

再刊 27 号

- 賀川記念館と生活協同組合 馬場一郎
- 研修報告
- 施設紹介
幼保連携型認定こども園 のぞみ保育園
特別養護老人ホーム ガーデン天使
- トピックス(竣工しました)
幼保連携型認定こども園
宇山光の子保育園
- 施設長紹介
- イエス団の輪っ
出上俊一さん(理事)
佐倉愛美さん(宇山光の子保育園)
田岡三千代さん(育愛館)
埴岡義範さん(聖浄保育園)
不破あかりさん(みどり野保育園)
- J.B.フェローズ活動報告
- 表紙写真の解説
- 編集後記

発行：2022年12月24日

発行者：黒田 道郎

編集・発行：

社会福祉法人・学校法人 イエス団

〒651-0076

兵庫県神戸市中央区吾妻通 5-2-20

TEL：078-221-9565

FAX：078-221-9566

https://jesusband.jp.

mail to: honbu@jesusband.jp



2022/10/5 11:00



ミッションステートメント2009

わたしたちイエス団の実践は、
1909年12月24日の賀川豊彦の献身に始まる。
そして、イエスの愛に倣い、互いに仕えあい、
社会悪と闘い、新しい社会を目指して
多くの協働者とともに今日まで歩み続けてきた。
この歴史を検証し、働きを引き継ぎ、
今、わたしたちはイエスに倣って生きる。

わたしたちは、いのちが大切にされる 社会をつくりだす
わたしたちは、隣り人と共に生きる 社会をつくりだす
わたしたちは、違いを認め合える 社会をつくりだす
わたしたちは、自然が大切にされる 社会をつくりだす
わたしたちは、平和をつくりだす

2009年12月24日

賀川記念館と

生活協同組合



賀川記念館 館長
コープこうべ 理事長
馬場一郎

2017年からコープこうべの理事をさせて頂き、2021年6月、理事長に選任されたのも賀川記念館館長ということのご指名だったのかと思います。それは設立者を同じくするイエス団とコープこうべの原点の確認、ということだったのかもしれませんが。

イエス団は1909年、賀川の献身から始まります。彼の命を懸けた地域での救済の活動から12年後、1921年に神戸購買組合、灘購買組合が設立されました。この二つの購買組合の設立に指導的に関わったのが賀川豊彦です。救済の活動に限界を感じていた彼が取り組んだ仕組みづくりが生活協同組合でした。

彼の生涯の活動は、Christianity、Peace、Cooperationに集約されると言われています。

「協同組合のアイデンティティに関するICA声明」が1995年に出されています。ICAとは国際協同組合同盟(協同組合の国際組織であり、世界の協同組合運動の推進、協同組合の価値と原則の推進と擁護、協同組合間の協力関係の促進、世界平和と安全保障への貢献などを目的とし、情報発信、国際会議やセミナーの開催、国際連合への提言などの活動をおこなっている。)のことであり、その声明には協同組合の定義、価値、原則が書かれているのですが、その「価値」の項目は「協同組合は、自助、自己責任、民主主義、平等、公正、そして連帯の価値を基礎とする。それぞれの創設者の伝統を受け継ぎ、協同組合の組合員は誠実、公開、社会的責任、そして他者への配慮という倫理的価値を信条とする」と書かれています。

協同組合は組合員の組織であり、その組合員は「誠実」であり、「他者への配慮」をその信条とするのだと言っているのです。

私はこの声明を読んだ時、「協同組合の組合員になるのであればその信条を持って生きていこう」と投げかけているように思いました。これは「運動」であると。そして「それぞれの創設者の伝統を受け継ぎ」と書かれています。日本におけるその創設者は賀川豊彦です。ここでは賀川の伝統(精神)を受け継ぎ、と読むことができるのではないのでしょうか。

コープこうべに関わり、すぐに感じたことは兵庫県下におけるコープこうべの働きの広さ、大きさでした。もちろん店舗、宅配における供給事業がメインではありますが、その事業と共に組合員活動としての地域活動の広さです。組合員の暮らしを支え、社会的、文化的ニーズや願いを組合員と共に形にしている姿に驚きました。

私たちイエス団が社会福祉事業を行いながら、なお地域で暮らす人々のニーズや、困りごとに対応してきたことに通じる働きであると感じています。それも組合員の主体的な関りの中で実行されている。この働き・活動が生協という舞台で地域に浸透していったら、地域の人々の暮らしはもっと良くなっていくのではないかと。「誠実」と「他者への配慮」を信条とし、「愛と協同」を掲げ、助け合うことができれば、人々はもっと「しあわせ」になれるのではないかと想像を膨らませました。

コープこうべは組合員数172万人を数え、供給高が2,600億円を超える大きな組織です。大きくなったが故に抱える課題も当然あります。「運動」と「事業」ということもその一つだと思います。コープこうべは厳しい競争の中にあります。その中で「事業」として採算を取り、継続して運営をしていかなければなりません。その中で「事業」と「運動」は、相矛盾するものとして捉えられます。しかし「事業」と「運動」は一体のものであると思うのです。コープこうべの「事業」は「運動」を達成する手段でなければならないのです。

賀川は生活協同組合の中心思想を7つにまとめて書き残しています。

- ①「利益共楽」 ②「人格経済」 ③「資本協同」
- ④「非搾取」 ⑤「権力分散」 ⑥「超政党」
- ⑦「教育中心」です。

平等に利益を分かち合える共存共栄の社会の創造、営利追求ではない人間を中心においた経済社会、そして最後は教育の大切さ。それは「人間」にすべてをおいた考えに読めると思います。

イエス団は小さく、弱くされた人たちに仕える仕事をし、ミッションステートメントに言われる社会の実現に向け、地域と共にあろうと考え、日々の事業運営を継続しています。賀川豊彦が113年前、目の前で苦しむ人々、そのひとり一人に仕えるために行ってきた仕事がイエス団で、コープこうべでその精神が受け継がれている。そんなことを感じています。

研修会報告

新任職員研修会

2022年3月22日(火)～23日(水)

於：オンライン開催

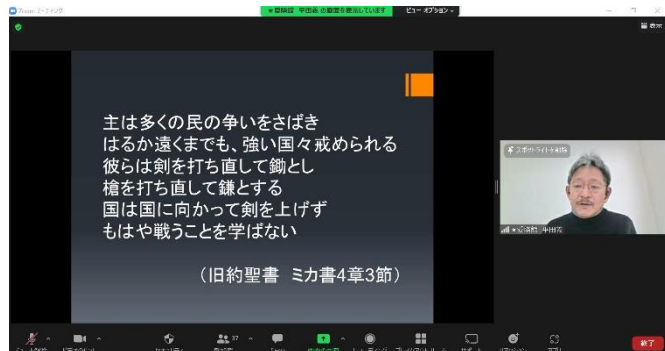
新任職員フォローアップ研修会

2022年10月29日(土)、11月19日(土)

於：賀川記念館／オンライン：ハイブリッド開催

新型コロナ感染拡大を受け、3月の研修はオンライン開催となりました。初めて会う人とオンラインでつながることになり、はじめは遠慮気味に話をしていた参加者の皆さんも、セッションを進めていく中で、少しずつお互いのことを知り、考え方の違いに面白さを感じたり、話をきいてもらい、共感してもらうことの心地よさに気付いているようでした。

イエス団で大切にしていることを聖書のことばや、施設での事例などを通して学びました。世の中の最もしんどい人は誰か、ということを私たちは心のアンテナをもって気づき、その人のしんどさに目を向け、アプローチをし、その人が幸せになることが大切ということを知りました。



では、私には何ができるのか？ということを考えるにあたり、社会福祉の仕事を選ぶに至った経緯を自ら振り返ることで、自分の気持ちに向き合い、仲間のこれまでの話も聞き、仕事への責任感や、目標を持つことができたようです。

そして、フェローズの話を聞き、施設で働く事に対して、思いを具体化させていき、これから私が大切にしていくこと(私のミッションステートメント)を考え、参加者の前で宣言しました。宣言するみなさんは「さあ、これから利用者のためにがんばろう」という気迫が感じられました。それぞれに充実した1日を過ごせたことに感謝です。

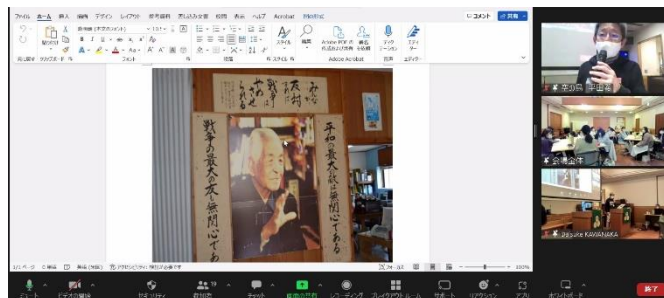
そして、秋。

それぞれが思いをもって仕事に励んでいる中で、迷い、悩んでいることが出てきたようです。そんな中、春に出会った法人の仲間とつながりたい、という気持ちをもって研修に参加してくださった方も多くいたようです。



仲間の悩みを聞き、「わたしだけじゃないんだ」という安心感が得られ、フェローズに話を聞いてもらい、他の人の意見を聞き、自分になかったことが得られたという感想もありました。

一人では解決できないことも人とつながり、支えてもらい前に進むことができるということに気付いたようでした。



半年間無我夢中で頑張ってきて、なかなか自分のことを振り返ることができなかったようですが、研修の中でありのままの自分でいいこと、自分を好きになる事、自分を大切にすることが周りの人を大切にすることになっていく事を知り、心が軽くなり、あらたな気持ちをもって研修を終えることができました。



心が洗われたようなすがすがしい顔をした参加者の姿を見て、研修を企画したスタッフの思いが伝わったようで本当に嬉しい気持ちになりました。

今日もまた、それぞれの施設で、自分にできることを見つめながら仕事をされているみなさん。これから一緒に小さくされた人に寄り添っていきましょう。

報告：企画委員会 研修担当チーム
神視保育園 園長 植月優子

ブラッシュアップ研修会

2022年6月10日（金）～11日（土）
於：賀川記念館

研修目標

- 1) 今の自分を見つめ、これからの課題を探る
- 2) 現場での体験を出し合い、仲間と共有する
- 3) 「イエス団で働くこと」の意味を理解し、深める

研修目標を掲げ、ブラッシュアップ研修を行いました。宿泊研修はできなかったですが、2日間対面の研修ができました。

スタートの「アイスブレイク」ではグループでの共同作業。初対面で話をし、課題を進めていく難しさを感じながらも、交流を深め、対面だからその気付きもあったようです。

また今回は、グループの入れ替えはなく最後まで同じグループで進めました。入れ替えがないことにより、より深く話すことが出来、自分自身の思いを色々話し、また聞いてもらうことにより、自分だけでなく皆がそれぞれに悩みを持っているなど、今の自分そしてこれからの自分を見つける良い機会になったようです。

「私のミッションステートメント2022」では皆さんの思いが感じられ、とても良い発表の場となりました。

私も皆さんと直接顔を合わせ、話をさせていただき、皆さんの悩みや思いをより深く知ることが出来ました。私自身皆さんの前向きな「思い」を聞かせていただき、「明日から頑張ろう！」という気持ちになりました。

それぞれの施設に帰り、この研修で感じた「思い」が新たな一歩になりますように願っています。

報告：企画委員会 研修担当チーム
聖浄保育園 園長 峰浩美

全体主任会

2022年7月1日（金）
於：賀川記念館／オンライン：ハイブリッド開催

「イエスに倣って生きる」をテーマに愛隣デイサービスセンター・空の鳥幼稚園施設長である平田先生に講演をしていただきました。



○インクルーシブな社会の実現

違いも超えて当たり前の一つでいる。色々な人が共に過ごす社会。

その為に、炊き出しやフェスティバルなど、様々な働きかけをすることで当たり前に色々な人と触れ合える環境を提供していく。

その一つにアオギリ2世の植樹を行った。

復興のシンボルをフェスティバルで植え平和を願ったが、何度も抜かれていると知り、様々な思いを抱えて過ごしている人がいるという事実もあり、現在取り入れ方を検討中。

○平和

神さまは争いを収めてくださっているが、神様に示されても人間は繰り返してしまう。過ちに気づき、希望を失わないでいたい。

○平和を作り出す為に

歴史を学んだり、現状を知り、対決ではなく対話を。私たちにできることから始める。

○愛隣館の心温まるエピソード

平田先生と出会った子どもや保護者のエピソードを聞かせてもらった。その中で心に残った言葉が

* “生まれてきて良かった” と思える経験をさせてあげたい。

* “障がいがあるから、ここにいけない”ではなく、“この子がどこにいきたいか”である。

人は生活している中で知らず知らずのうちに（気付かぬうちに）人を傷つけている事もある。

相模原障害者施設の事件もその1例ではないか。MS2009の社会を作り出すの中にもあるように気付き思いを寄せる、社会を作り出す機会を作っていけるのはイエス団ではないか。

〇イエスに倣って生きる

歴史や社会を知り、様々な人と出会い、気づきを得る。自分の生き様を自分がどう捉えているか、相手の気持ちや痛みのシェアをして思いを寄せる。制度の隙間を埋める働きから社会を変える。平和でなければ福祉はできない。



左記のような話を伺い、講演内容の分かち合いをしました。

- * 社会を作り出すために思いをはせる、思いに寄り添うことが大切である。
- * 平和研修を行う園の話から、平和の種をまき、生きた平和を伝えていることを実感した。
- * 障がいをもつ子どもとの関わりの話から、子ども同士の関わりの中で、子どもが子どもの中で育つことが大事。小さい時に色々な人に出会うことがどれだけ大事なのかが分かった。
- * 主任の仕事への悩み。若い職員を潰してはいけないと中堅職員がしんどい思いをしているのでは。メンタルが弱っている職員が増える中でどうフォローしていくのが課題。

(感想)

グループでの分かち合いを受け平田先生より、福祉とは「人を幸せにすること」であり、自ら近寄って分かち合い、寄り添うことが大切であると教えて頂きました。

また、コロナ禍で関わりが少なくなっている中で、「できない。」と諦めるのではなく、どのようにしたら繋がっていきけるのかを考える事の大切さも学びました。今回の研修を通して、インクルーシブな社会の実現には、まず目の前や周りで困っている人達に寄り添い、その悩みや苦しみを解放するために自分にできることを考え、後回しにするのではなく、すぐに実行することが大切なのだと感じました。また、主任の仕事への不安を抱える中で、「人は弱くて当

り前」という言葉も心に残りました。自分自身も弱い存在なので、相手を受け入れるのが難しいこともあるのですが、まずは相手の立場に立って相手を知っていきたい。そして自分の弱さ、相手の弱さを知り、認め合っていきたいと思いました。「イエスに倣って生きる」を前程に、様々な視点や気づきのアンテナを張り、自分にできることを考えながら子ども達、保護者、職員、地域の方々に寄り添っていきたいです。

オンラインで参加の方もいらっしゃいましたが、実際に顔を合わせて全体主任会を行う事ができ、とても充実した意見交換の場になったことを感謝しています。

(幼保連携型認定こども園のぞみ保育園 能田静香)



(感想)

「日本は経験したからこそ、分かる事があるのではないのか。何によって苦しめられているのか。平和でなければ福祉はできない」という事を聞き、経験とは大切な事で、経験できなくても無知でいるのではなく、様々な事にアンテナを張り、知る事の大切さを感じた。また、「“主任は強くないといけない。大きくないといけない。”というのは違う。人は弱くて当たりまえ。弱さを絆にしながら周り生きていく。心の叫びをキャッチでき人が人を大切にする社会。」と聞き、私が今働いている園、立場、周りの環境というのはどうなのだろうかと少し振り返ってみた。取り組み方次第でぶつかる事もあるが、皆向かっている方向は同じで、途中誰かが難しそうにしていたり、転んでしまうと、しっかりと手を差し伸べてくれる仲間が周りにはたくさんいるな…と改めて思った。それと同時にこの環境に嬉しさも感じた。主任という仕事について4年。まだまだ知らない事、経験した事のないこともたくさんあります。今現在コロナウイルスという目に見えない物に阻まれ、身動きが取りにくい事もあるが、“できない”ではなく、“どのような工夫が必要なのか”。また、コロナだからこそ、私たちの助けが必要な方もいらっしゃるのではないのか。園として大切にしている事・一人ひとりが大切にしている事・自分自身が大切にしている事を心に置きながら、これから先は皆で地域に目を向けたり保護者へ更に寄り添ったりしていけたらよいなと思いました。

(幼保連携型認定こども園のぞみ保育園 遠藤法子)

報告：幼保連携型認定こども園のぞみ保育園

主任 能田静香

主任 遠藤法子

リーダーシップ養成研修会ステップⅠ

2022年9月8日(木)～10日(土)

座学：在日韓国基督教教会館(KCC)

フィールドワーク：生野の街

社会福祉法人愛信福祉会 愛信保育園

社会福祉法人聖和協働福祉会 大阪聖和保育園

NPO法人サンボラム在日コリアン高齢者支援センター大池橋サンボラム

NPO法人うり・そだん デイサービスさらんぼん

NPO法人出発(たびだち)のなかまの会

コロナ禍、どうすれば今までと同じ研修ができるのだろうか。担当委員は常に『現場へ行かなければ新たな出会いはなく、学びを深められない。この学びがMS2009の新たな実現へつながる』ことを確認し研修を行いました。現場研修が多いのがこの研修の特徴です。研修を快く受け入れてくださった愛信保育園、大阪聖和保育園、サンボラム、さらんぼん、出発のなかまの会の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。参加人数が少ないこともあり、濃密な研修を受けることが出来たのも良かったです。研修のスケジュールは3年前と同じで、3日間を通して川中大輔さん(龍谷大学社会学部准教授)に講師を担っていただきました。



初日はイエス団理事で聖公会生野センター総主事の呉光現氏に案内していただき、在日の方々が多く住まれている生野地域の、戦前・戦後・現在をゆっくりと歩きながら体感しました。朝鮮市場(御幸通商店街・コリアンタウン)や戦後の闇市のあとを残している「鶴橋国際マーケット」などの現場に立つと、生野の街に息づく匂いや空気、飛び交う会話など五感を通して“生野の街”を感じたのではないのでしょうか。

在日韓国基督教教会館(KCC)では呉光現氏から在日朝鮮・韓国人の現在に至るまでの歴史や、生野にお住いの在日2世のオモニのお話を伺いました。呉光現氏のお話で印象に残ったことは、差別がヘイトスピーチや宇治市ウトロの放火事件などのように、普段普通に生活している人たちが一部の偏った情報によって過激な差別を生んでいることを学びました。



二世のオモニは、日本での生活の大変さはあったが日本人に対する恨みはほとんど話さず、息子たちを懸命に育ててきたお話を伺いました。でも、隠された胸の内を日本人である私たちへ話すことへのためらいがあり、現在行っているデイサービスでも通名を使っていることを知ると、意識的に日本社会へ溶け込まなければならない日本の社会環境であることに、私たちがどれだけ気付いているのかを問われているお話しでした。

だからこそ、日本と朝鮮半島の歴史・在日の歴史をしっかり知らなければと、感じた参加者も多くいました。



2日目は生野の地域課題を、自らの課題として施設運営されている方々の現場研修は、私たちイエス団としてもMS2009の実践につながる学びとなりました。



3日目の「私のアクションプランをつくる」段階では、現場研修をヒントにそれぞれの施設・事業所の地域へ思いを広げ、私たちに何ができるのか、何を求められているのかを考える良い時となりました。今までにない視点で取り組みを考えることは容易なことではありません。

宿題を持ち帰り、各々の場で再検討、再確認をしながら参加職員だけで取り組みでなく施設全体で取り組み、MS2009 の新たな実現を目指していきたいと思います。



今年は、ロシアがウクライナへ侵略戦争を始めました。だからこそリーダーシップ養成研修が現場でできたことは本当に意義深かったと思います。呉光現氏もお話しされていましたが、このロシアの行為は、日本が朝鮮半島・中国・アジア諸国へ行った侵略戦争と全く同じであること。そのことを私達日本人がどれだけ思い起こせているのかを問われています。ウクライナの状況を多くの人たちが「大変だ。平和を求めよう！」という気持ちを持っています。これと同じように、在日として日本に住んでいる方々への思いを忘れてはならないし、「知らない事・無関心は罪である」ことを実感できた研修だったと思います。



報告：企画委員会 研修担当チーム
野の百合保育園 園長 井桁 光

2022 年度の研修を振り返って

「いつもの研修に戻していこう」という願いをもって始まった 2022 年度の研修でした。

感染状況により、やむなく 2 回に分けてオンラインで行った 3 月の新任研修会。6 月のブラッシュアップ研修会では、今年も宿泊は適いませんでしたが、久しぶりの対面研修となり、顔を合わせて話をする事の喜びを大いに感じました。

コロナ禍の今だからこそ顔を合わせて、話をする事の重要性を感じています。特に新任研修会やブラッシュアップ研修会では、日常から離れた六甲山の自然の中で行ってきたことの良さを痛感しています。

研修でイエス団の仲間に出会い、同じ思いを共有する。上手くいくこともあるが、いかないことの方が多い。人と関わるわたしたちの仕事は、責任も重い。それをどう乗り越えていくのかを考えるためには、現場から離れ、自分を見つめ直す必要もあります。オンラインは、移動時間もなく便利ですが、オンラインでは見えないことがたくさんありました。

特に今年、コロナ禍でできるかできないか、ぎりぎりの線で行ったのが、リーダーシップ養成研修Ⅰです。企画した 4 月には、9 月の状況を予測できませんでした。近づくにつれ増える感染者。特に大阪は感染拡大していました。そのような中、訪問先の施設とのやり取りを進めて行き、直前で切り替える必要もあることを想定し、参加者は直前 2 週間の体調管理を行い、施設訪問当日は、スタッフも含め全員の抗原検査。細心の注意を払っての実施でした。

施設は「毎日命がけで利用者のために開けています」と言われたにもかかわらず、「研修生の学びのために」と気持ちよく迎え入れてくださった生野の施設の皆さまには、これ以上の感謝はありませんでした。またご尽力くださった理事の呉光現氏の地域における「信頼」を改めて感じ、多くの方々のご協力とお支えがあったからこそ実現できたことに感謝申し上げます。この研修でどれほどの学びがあったかは先の報告にまとめられています。信じて参加してくださった受講生の方々。やむなく直前で参加できなかった方々も含め、今大切にしたいことを選んでくださったことにスタッフも勇気をいただき、無事この研修会を終えることができました。

どの研修会においても、ご参加くださった皆さまが笑顔で現場に戻っていられるのを見ることができたのが、何より大きな喜びでした。

わたしたちは、確かに神さまから大事にされています。そのことをまさに実感しました。

わたしも、「皆さまのことが大好き」です。どうぞ、それぞれの場で自分らしい働きをなさいますように。また新たな年、たくさんの仲間と出会うことができますようにと楽しみにしています。

わたしたち研修担当チームは、みなさまの学びと笑顔のために、コロナには決して負けません。

企画委員会 研修担当チーム
チーフ 田村三佳子

施設紹介

幼保連携型認定こども園

のぞみ保育園



データ

〒654-0155 神戸市須磨区西落合 7 丁目 1-1

TEL : 078-791-8446 FAX : 078-791-8491

2015 年 4 月から新園舎での生活が始まりました。園舎が平屋から 2 階建てに変わったことで、園庭がさらに広くなりました。園の周辺は団地も点在していますが、緑豊かな地域です。子どもたちが歩いて行ける距離にいくつもの公園があり、自然をたくさん感じられますが、もっと身近に感じられるように・・・この広い園庭を何とかしたい・・・と、思い続けて数年。ついに、2021 年、思いを形にしようと動き出しました。

まず、どんな園庭にしたら子どもたちがわくわくするか、新しい園庭で遊ぶ姿を想像しながら職員同士でアイデアを出し合いました。

- ・水を自由に使えるスペース
- ・築山トンネル
- ・花や草を自由に摘み取れるスペース
- ・ゴロゴロできる芝生のスペース
- ・木登りできる木
- ・どんぐりなど木の実や花の咲く木
- ・木陰で遊べるくらい大きな木が欲しい。

上記のような職員の思いを全部、業者の方にぶつけました。業者の方もその思いをくみ取って、イメージ図を作成してくださいました。

次に、「園庭の使い方・危険予測し約束事を考える」、「植えている木の特徴を調べる」、「土・肥料作りに挑戦する」、「木のプレート作成」という、グループに分かれて新しい園庭のイメージを膨らませていきました。



子どもたちと調べるために職員で作成した「木の実地図」

全体イメージ図の角度や部分的な詳細図の作成を依頼した時には業者の方と ZOOM で質問時間を設けたりしながら、より子どもの姿を現実的に捉え、職員もわくわくした気持ちで話し合いを重ねました。

そして 2022 年 3 月新しい園庭が完成！木々に囲まれ、身近に自然を体感できる園庭に生まれ変わりました。子どもたちや職員も自然物を拾い集めたり、虫探しをしたり、遊びに来る鳥の鳴き声に空を見上げたり。真ん中の空間では三輪車を走らせたり、鬼ごっこで走り回ったりしています。



コロナ禍でなかなか他クラスの友だちと一緒に過ごすことができませんが、この園庭に出てくると、異年齢の関わりも自然にみられることに心があたたかくなります。

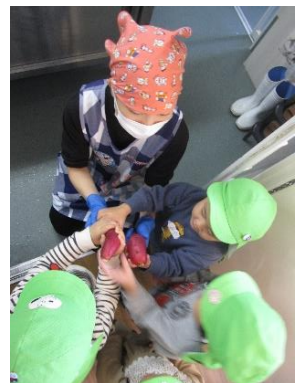


憧れていた「ガチャポンプ」
大人も一度は出したいくなること間違いなし。遊びに来られた時は是非触ってください！

畑の土を耕す 4 歳児
さつまいもを植える準備中。
みんなの愛情をたっぷり受けて、立派な甘いお芋を収穫しました。



子どもたちと相談しながら畑やプランターで年間通して栽培をしています。職員はふと、食育って何？と考える時もありますが、こうして子どもたちと一緒に栽培をしたり、調理前の食材に触れたり。そして何より、子どもたちと職員の元気の源、栄養士の愛情と栄養たっぷりの「おいしい給食とおやつ」を頂くこと。「毎日が食育」ですよね。これからも神様が創られた「土・水・光(太陽)」への感謝の気持ちを忘れず、子ども達の成長を見守ってまいります。



園長 宇治 加奈子



データ

〒554-0024 大阪市此花区島屋 4 丁目 1 番 11 号

TEL : 06-6460-0028 FAX : 06-6460-0025



高齢者が安心して生活できる福祉施設「ガーデン天使」は、1992 年 1 月 20 日に地域、全国の方々からの支援を受け設立しました。「ガーデン天使」という名称は旧約聖書の神による天地創造の中にでくる、いわゆる「エデンの園」をイメージしており、ガーデンの中央には命の木があり、「一人もほろびないで」神による命を全うするという思いが込められています。その使命は、私達の理念「共に生きる」を象徴し、社会情勢が変化しようとも変わらず、私達の道標(みちしるべ)となります。

そして、今年 2022 年 1 月 20 日で 30 周年を迎えました。創立してから現在まで長きに亘り、地域を含め大勢のボランティアの方々にご支援をいただいていたからこそ、現在の施設の姿だと思っております。日々の生活から同好会、行事を含め、笑顔でお年寄りを共に支えていただいたことで、さらにガーデン天使がガーデン天使らしく運営できています。日々感謝です。



高齢者の方々は、私たちに「命の尊厳」を教えてください。ろうそくの灯が燃えるように、その生命の強さと尊さを感じ、私達は高齢者の方々が自分らしく生き、過ごしていただけるように、個人個人の思いを可能な限り酌み取り、寄り添える努力を重ねています。「ここに来てよかったわ。」声に出さなくてもそう思っていただけのように

に、お一人お一人をスタッフ全員、心から愛情を持って対応していこうと、日々学び、話し合い、悩みながらも、職員同士切磋琢磨しています。



また高齢者の介護は、「お世話をする」というイメージが強いですが、私たちは日々様々なことがらを学ばせていただいています。例えば日常で言うと、梅を紫蘇を揉んで漬ける時に、鮮やかな色を出すひと手間や、工夫を入れた漬け方であったり、方言の意味やお正月のお餅の丸め方。机の拭き方はしっかりと机のへりまで拭くことや、掃き掃除は隅まできっちり。衣類等の縫い方、着物の着方の意味や作法といった日本の文化や習わし、礼儀や作法を、時には手を叩かれて職員に教えてくれたりします。職員も「へえ～そんな意味があるんですね!」と感嘆し、お年寄りも「お嫁にいかなあかんのやから、ちゃんと覚えておきや!」とお母さんのようなお顔で嬉しく楽しそうにお話をしてくれます。男性職員には「しっかりしいや! にいちゃん」と大阪らしく叱咤激励してくださり、職員があたふたしている微笑ましい場面も見られます。



また重度の方は顔の表情で私たちに丁寧な介護ができていのかどうかを教えてください。力加減や話しかけ、一方通行のような介護に見られますが、眉毛が少し動いたり、表情で私たちに良い加減でサポートができていのかを伝えてくださり、しっかりと気持ちを酌み取ってくださいます。

こうして年齢に関係なく、初めて介護をしたいと思う者や、ベテラン職員であっても人生の先輩方が私たちを育ててくれます。

そのような中で、3 年前に新型コロナウイルス感染症が流行し、ボランティアグループが解散となり、地域の方々との交流が全くなり、行事や面会も制限され、寂しく、悲しい日々が続いていました。しかしながら、現在は行事も職員同士の交流も、形式を変えて行い、少しずつそのような状況にも慣れてきているところです。そのような中で痛感したことは、やはり人と人との会話や交流の大事さです。新型コロナウイルス感染症によって、改めて人との繋がりが生きていく上で必要であるということを知り、確認し、私たちはその温もりを利用者の方々に感じてもらい、行動しにくい状況下であっても笑いがある、楽しみがある、生きがいがあるサポートをしていきたいと思っています。

2020 年に 30 周年記念事業として、施設内のリニューアル工事を行ないました。まだまだ修理が必要な古い機器等が隠れていますが、是非皆さま、年季の入った素敵スタッフと



リニューアルして綺麗になった施設を見にいらしてください。ガーデン天使喫茶で挽きたてのコーヒーと共に、職員一同笑顔でお待ちしています。

施設長 嶋田 真奈

トピックス (竣工しました。)

幼保連携型認定こども園

宇山光の子保育園



2018年4月1日 宇山光の子保育園 園長として就任いたしました。多くの悩みを抱えた職員を前にして、本当にこの保育園の園長として立っていけるのか？揺らぐ思いもありました。けれど、すべては神様のなさる業と信じ、お任せすることといたしました。

何が、宇山光の子保育園に足りないことなのか？やはりそこには「保育」をどのように、捉え、整えていくかが欠けているのだと思いました。

保育室は、主体的に遊べる環境ではなく、ほとんどが一斉保育の状態でありました。行事については、毎年同じことが繰り返されており、先生方は子どもたちと何をしたいかを考えることはありません。すべてが毎年の繰り返し…。何人かの先生方は疑問を持ちながら過ごされていた様子です。

また、正規職員保育士が少なく、何かを変えていくには難しい状況でした。そこに加え、2017年に予定されていた建て替え事業が取り消されてしまったのです。職員の失望は大きかったと思います。

新しい園長は、どんな人物なのか？自分たちを守ってくれるのか？何を考えているのか？私たちをどうしようとしているのか？不安な様子がよくわかりました。

これからの保育園について何度も何度も話し合いながら、保育士ひとりひとりが夢を持てるようになるためには、ビジョンが必要と考えました。

2019年4月、そのビジョン(事業計画)を言葉にして職員に伝えました。(次頁右下)

私はこの計画を、A3の紙に印刷し、園長の机の前に張り続けました。そして、実現は、一年遅れとなりましたが、新しい園舎へ引っ越しの際に、黄色くなったこの計画書を剥がしました。

「何事でも神の御心に適うことをわたしたちが願うなら、神は聞き入れてくださる。これが神に対するわたしたちの確信です。」 I ヨハネの手紙5章14節

一度はこちらから取り下げた補助金です。枚方市が、本当にもう一度計画してくださるとは正直思っていませんでした。ですが機会は意外に早く訪れました。まだ、積み立ても

ほとんどない状態でしたが、枚方市の担当者の方と一緒にあって資金面の計画を何度も何度も立て直しました。そのたびに、理事の先生方からは厳しいお言葉をいただきましたが、諦めるわけにはいきませんでした。職員の思いが私に伝わってくるのです。保護者の方の願いが感じられるのです。何度も何度も計画を練り直し、同法人の先生方(施設)の援助をいただいて、建て替えを計画することができました。

大まかな図面が出来上がると、今度は職員との意見交換です。限られた資金の中で、どのような環境にするのか。細かいところの使い勝手の良さは、保育の現場の職員には大切なことです。



出来上がった施設は、3階建ての緑をたくさん取り入れた保育園となりました。1階には、乳児クラス、事務室・職員休憩スペース、厨房、2階には3歳児クラス、遊戯室、3階には4歳児、5歳児保育室を設けました。また、2階、3階の廊下はスペースを広げ、フリースペースとして子どもたちがカードゲームや、絵本を読んだりする環境を用意しました。



園庭の一部は芝生になっています。また、園舎の裏側には乳児園庭を設けることができました。2階ベランダには人工芝の園庭、3階ベランダにはガーデニング、畑作りが楽しめるように、ウッドデッキ、パーゴラを設置しました。



天然芝の園庭のアプローチ

コロナ禍の中での起工式となりましたが、枚方市長、行政担当者の方々、私立保育園連盟の先生方、法人の先生方が出席してくださいました。



竣工式での礼拝

建物が出来上がったことで、すべてが完成されたわけではありません。まだまだ私たちには課題があります。まずは、認定こども園として4月よりスタートをさせました。この運営をしっかりとっていくこと。認定こども園としての保育内容、子育て支援事業の充実、そして小学児童への支援事業の立ち上げ…。

未来に向けて、歩み続けていきたいと思います。

2022年11月21日(月)
宇山光の子保育園 園長 谷口 浩美



人工芝の2階のベランダ



乳児クラス



園舎全景



園舎エントランスホール

宇山光の子保育園 事業計画 (2019年4月)

1、キリスト教保育への移行

2004年 社会福祉法人イエス団 宇山光の子保育園に移管され15年が経過しました。

公立保育園としての歩みを受け継ぎながら、そしてイエス団の創設の理念、ミッションステートメント2009の精神、「イエス団の保育」を大切に歩んできました。そして2019年、キリスト教保育への移行を具体的に進めてまいります。と書いても、具体的に大きく変化があるわけではありません。

保育内容的には、昨年度も行いました、キリスト教行事(平和の集い、救世主感謝の集い、クリスマス会)を継続するとともに、日々の生活の中では、子ども讃美歌を歌ったり、感謝のお祈りを行ったりと少しずつ進めてまいりたいと考えます。特に現在在園する子どもたちは、お祈りすることには慣れていませんので、新しく入園する0歳児クラスより取り入れていき、5年間をかけて行っています。讃美歌については、すでに取っているものを中心に保育の中で取り入れていきます。

大きく変化する1つとして、音楽会を『クリスマス・音楽会』(仮称)とし、その中で年長組によるページェント(聖劇)を行っていきます。聖誕劇:昨年「クリスマスってなに」のお話をしました。そのお話を子どもたちの劇で行います。

年長の子どもたちは、音楽会の発表の内容として劇を行います。楽奏の発表は、生活発表会等の別の行事で取り組みます。

2、建て替え計画

- 1、 イエス団本部事務局、経営会議・理事会への起案書を提出 (谷口)
2018年度決算を行い、建て替えが可能であるかを再検討
- 2、 前回の設計図の見直し (谷口)
設計事務所と面談? 可能であるか
- 3、 予定建設費用、資金計画 (谷口)
- 4、 設計事務所を選定・枚方市へ計画の報告及び補助金申請について相談 (谷口)
- 5、 構想ミーティングを行う
大まかな基本設計を設計事務所と相談 (職員の見解)
- 6、 枚方市と協議しながら補助金申請・計画を進める
2020年・2021年の計画として

3、幼保連携型認定こども園への移行

2021年園舎完成と共に移行する

保護者への説明、納入に関する金融機関の準備、書類作成、職員配置計画

宇山光の子保育園
園長 谷口 浩美

園長の机の前に貼り続けた事業計画書

施設長紹介

兵庫ブロック

友愛幼児園(幼保連携型 認定こども園) / 二宮児童館(兼務)

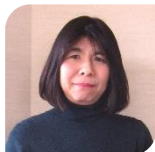
関 紀美子(せき きみこ) 2019 年度就任



友愛幼児園には 2001 年 6 月より保育士として入職しました。賀川記念館の建て替えがあり、職員が力を合わせて取り組んだ事も今では懐かしいです。元気に外で遊ぶことが好きです。本を読むのも好きで、最近は「春いちばん」を読み改めて賀川ハルさんの働きに感動しました。

神視保育園

植月 優子(うえつき ゆうこ) 2020 年度就任



2015 年にのぞみ保育園で園長に就任しました。のぞみ保育園の建替え事業が終わり、幼保連携型認定こども園に移行した年でもありました。2020 年に神視保育園に異動し、地域の課題に目を向けながら毎日を過ごしています。新任職員研修ではスタッフとしてみなさまとお会いできてうれしく思っています。神戸は山や海がすぐ近くにあり、自然を眺めると心が洗われ、リフレッシュしています。

のぞみ保育園(幼保連携型 認定こども園)

宇治 加奈子(うじ かなこ) 2020 年度就任



2003 年夢だった保育士となったことが、イエス団との関わりの始まりでした。その後、職務に取り組み、頼もしい先輩や刺激ある後輩に恵まれ、子どもたちと楽しい時間を過ごしていました。2019 年度神視保育園での学びを経て、2020 年 4 月園長としてのぞみに帰ってきました。中学生の時に吹奏楽と出会い、今でも楽器の音が聞こえてくると心が弾みます。一人の時間よりも家族や友人、誰かと一緒に過ごす時間が私の心の栄養です。

二宮保育園

保野 恵子(やすの けいこ) 2021 年度就任



友愛幼児園で長く勤めておりましたが、2019 年度より民間移管としてイエス団が運営することになった二宮保育園の立ち上げから主任として関わり、園長としては 2 年目となります。音楽が好きで、学生の頃から吹奏楽や合唱、ハンドベルなどを経験。趣味はクラリネット演奏です。

賀川記念館

馬場 一郎(ばば いちろう) 2015 年度就任



賀川記念館・2010 年副館長、2015 年館長就任。2003 年からイエス団にお世話になり 19 年です。本部事務局、天隣乳児保育園、友愛幼児園、賀川記念館、二宮児童館、港島児童館、二宮保育園とたくさん担当させていただき、現在は賀川記念館です。趣味はテニス少々とビールかな。

港島児童館

花房 奈子(はなふさ なこ) 2021 年度就任



私自身イエス団の皆様にも温かく迎えられ、人と人とのつながりを大切にする精神を学びました。趣味はピアノを弾くことが好きです。今後ともよろしくお願い致します。

杉の子保育園

今村 優二（いまむら ゆうじ） 2008 年度就任



2005 年に入職、3 年間主任保育士をしました。30 年ほど前、1 年だけですが大好きだったドイツで過ごしたことがあります。いろんな幼稚園を見ることができ、よい学びとなりました。

神戸高齢者総合ケアセンター真愛

出上 俊一（でがみ しゅんいち） 2007 年度就任



神戸高齢者総合ケアセンター真愛施設長（真愛・東川崎・熊内・神仙寺・滝山・荒田の各拠点事業）

イエス団報 27 号（今号）のイエス団の輪っのコーナーにて著述しておりますので、そちらをご覧ください。

甲子園二葉幼稚園

美濃部 信（みのべ まこと） 2022 年度就任



この 4 月から園長になりました美濃部です。甲子園二葉教会の牧師もしています。新米園長ゆえ分からないことだらけで、周囲の皆様に助けていただきながらなんとか務めています。書類作りだけではなく、子どもともしっかりと接するが目標です。よろしくお願いします。

一麦保育園（幼保連携型 認定こども園）

梅村 新（うめむら あらた） 2018 年度就任



兵庫県の高등학교教諭（理科・化学）を 33 年務めた後現職に。

父（故梅村貞造）から賀川豊彦先生、イエス団のことは聞かされていましたが、直接の関わりは 2015 年社会福祉法人の評議員になって以来です。西宮一麦教会ではオルガニストをつとめています。キリスト教音楽の学びを通して賀川純基さんに会いお話を伺ったことがあります。

みどり野保育園（幼保連携型 認定こども園）

中田 一夫（なかた かずお） 2015 年度就任



1963 年京都生まれ。長女は一昨年に結婚。今は大学院生 2 年になる次女、妻と芦屋市に住んでいます。

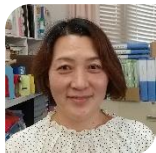
滋賀 YMCA でのボランティア経験から神戸 YMCA で 17 年勤めた後、本部事務局で 10 年勤め、

現在、みどり野保育園園長になって 8 年目となります。今の楽しみはギターで子ども達と賛美歌を歌うことです。

大阪ブロック

聖浄保育園(幼保連携型 認定こども園)

峰 浩美(みね ひろみ) 2014 年度就任



聖浄には1992年より勤めており今年で30年になります。この30年山あり谷ありでしたが、人に恵まれ、周りの人に支えられ現在まで勤めることができています。昨年より家族になった猫の「あんず」が私の癒しです。

天使保育園 / 四貫島友隣館 / 四貫島友隣館子どもの家(兼務)

嶋田 良介(しまだ りょうすけ) 2002 年度就任



天使保育園の嶋田良介と申します。2002年度から天使保育園に勤務しております。先代の小川居先生から受洗し、園長職を受け継ぎました。右も左も分からないまま流れのままに流され、現在に至ります。趣味は音楽鑑賞とアウトドアです。これから子ども達のために頑張りたいと思いますので、宜しくお願いします。

天使虹の園

Jbn27-X

柳本 英里(やなぎもと えり) 2005 年度就任



祖父母、両親がイエス団に奉職しており、私自身も、2005年に就任する前から、高校の非常勤講師と兼務しながら園の会計事務を手伝っていました。先代の父の召天後、本格的にお世話になっています。趣味は、この頃はなかなか乗っていませんが、単車のツーリングや旅行、サブスクでの映画鑑賞で、特技はピアノです。

天使ベビーセンター

濱田 由香里(はまだ ゆかり) 2017 年度就任



イエス団とのつながりは、天使保育園と出会った26年前になります。保育士として、天使ベビーセンター、北園(現虹の園)、天使保育園で保育を、子ども・子育てプラザでの子育て支援事業を経て、2017年に天使ベビーセンター園長に就任いたしました。ガーデニングなど土や自然に触れることが好きです。

ガーデン天使

嶋田 真奈(しまだ まな) 2013 年度就任



1998年12月にガーデン天使に入職。大学在学中から時々ガーデンにボランティアに行き、高齢者との関わりが楽しく、高齢者介護に進もうと決意し、今に至ります。為せば成ると一期一会をモットーに、施設のスタッフと共により良い施設に成長していきたいです。ドライブと皆でお酒を飲むことが好きです。

乳児院ガーデンエル

六川 徳子(むつかわ のりこ) 2021 年度就任



2010年4月にガーデンエル入職、家庭支援専門相談員を経て、2021年4月に施設長に就任しました。諸事情により、子どもが書いてくれた似顔絵で失礼します。人見知り緊張しやすいのですが、そう見えない様です。映画、演劇、小説が一番のリフレッシュです。

児童養護施設ガーデンロイ

松居 太開（まつい もとはる） 2018 年度就任



2004 年 4 月 聖浄保育園に就職し、2010 年 4 月 ガーデンロイに来ました。施設長に就任したのは 2018 年 4 月 1 日 以前は趣味としてお酒をたくさん飲んでいましたが、施設長になってからはノンアルコールビールに変更して過ごしています。法人唯一の児童養護施設ガーデンロイを知ってもらえるとありがたいです。

みなべ愛之園こども園(幼保連携型 認定こども園)

神谷 羊子（かみたに ようこ） 1991 年 11 月就任



1980 年 4 月より一麦保育園に就職予定でしたが、先代園長の父が病に倒れ急遽、帰る事となり愛之園保育園に就職。何もわからない私に役場の方が事務仕事を教えて下さり、当時は保育担任をしながら、会計、庶務を兼務していました。1998 年旧園舎建替え、1991 年園長であった母が亡くなり、園長となり 31 年。念願だった高台移転で 4 園統合のこども園が始まりました。いつも多くの方に支えられ、神様に守られていることに感謝です。

馬見労務保育園

岡本 秀美（おかもと ひでみ） 2021 年度就任



バスケットボール、バレーボール、スキーなどのスポーツをすることが好きでしたが、歳と共に膝を痛めてからは、お誘いのゴルフをする程度です。 イエス団との関りは大阪の私立幼稚園に 41 年勤務。定年を機に大学院に入学。ある日大学院学長からお話をいただき、現保育園にご縁となりました。今後ともよろしくお願い致します。

京都ブロック

桃陵乳児保育園

宇野 豊（うの ゆたか） 2007 年度就任



2005 年、東九条の地域活動専従から桃陵乳児保育園に転職、2007 年に園長に就任。
趣味は登山、タウンウォーキング、酒

桃陵保育園

木村 アサ（きむら あさ） 2010 年度就任



1982 年、桃陵保育園に就職、2010 年園長に就任。
趣味は低山歩き、食べ歩き、友だちとのおしゃべり。

京都ブロック

愛隣デイサービスセンター / 空の鳥幼児園（兼務）

平田 義（ひらた ただし） 1993 年度愛隣デイサービスセンター就任 2006 年度空の鳥幼児園就任



1961 年 10 月 29 日生まれ イエス団理事 日本キリスト教団牧師

1984 年 4 月愛隣館研修センター主事としてイエス団に入職 趣味：ラグビー、NFL、野球などのスポーツ観戦

野の百合保育園

井桁 光（いげた ひかり） 2016 年度就任



私は 1995 年 4 月 1 日から愛隣デイサービスセンターの介護職員としてイエス団の一員になりました。保育園に異動するまで、障がいのある方たちから多くのこと（特に医療的ケア）を教えていただきました。愛隣館が大切にしている『インクルーシブな社会の実現』ができるよう頑張ります。

ぶどうの木保育園

木村 耕（きむら こう） 1999 年度就任



京都府八幡市にある保育園です。ぶどうの木保育園に就職したのは 1994 年で、いくつかのクラス担任を担い、施設長に就任したのは 1999 年です。毎日全クラスに顔を出しては子どもたちと触れ合い、子どもたちに癒されている日々を過ごしています。

くずは光の子保育園

柴田 弘子（しばた ひろこ） 2008 年度就任



1979 年 4 月に就職し、保育士、保育主任を経て、今に至っています。自然を愛し、夜ウオーキングしながら月を見ることに癒されています。今まで、長い間子ども達と歩んできました。子ども達からたくさんの事を教えられ、今私があるのは、子どもたちのおかげです。近年、多くの教え子が親となり子どもさんを預けていただき、再会に感謝です。

宇山光の子保育園（幼保連携型 認定こども園）

谷口 浩美（たにぐち ひろみ） 2018 年度就任



イエス団に入職して、25 年以上になります。大阪生野区にある『聖浄保育園』に導かれ、2006 年に園長に就任しました。その後 2011 年に『のぞみ保育園』、2015 年に『神視保育園』、2018 年に『宇山光の子保育園』に異動となりました。大阪、兵庫、京都のブロックで、建替え（3 園）、2 園を一つに統合、こども園への移行にとチャレンジさせて頂きました。定年を迎える時期となり、あらたな気持ちで、“保育”に向き合っていきたいと思います。

四国ブロック

光の子保育園

黒田信雄（くろだ のぶお） 2003 年度就任



徳島県で最初の保父さんとして光の子に就職したのが今から 43 年前。先々代の園長が急逝するまで年長組の担任。その後副園長。2003 年から園長を引き継ぎ現在に至っています。賀川先生の精神を継承する徳島県内唯一の保育園として、若い職員に負けられないように励んでいます。

趣味？保育かなあ？得意な事？子どもと遊ぶことかなあ？日々、体力の低下と闘っています。

乳児院・神愛館

山下茂雄（やました しげお） 2015 年度就任



神愛館での働きも 8 年目を迎えています。キ保同での働きを通じて、イエス団の方々との出会いがあり、今があります。しかも乳児院という働き場が与えられ、このことにも「はからい」があったと感謝しています。

既にイエス団における働きも「最終ステージ」に入っていますが、最後まで前を向いた歩みをなしたいと願っています。

育愛館

藤澤孝子（ふじさわ たかこ） 2016 年度就任



1981 年学校卒業と同時に野の百合保育園にお世話になり、その後 2016 年、京都を離れ香川の育愛館に移動しました。ここまで保育一筋で歩んでこられたのは、たくさんの人との「出会い」と「支え」があったから…。

イエス団の「仲間」はずっとつながっています。これといってとりえのない私ですが、細く長く宜しくお願いします。

豊島ナオミ荘

丹生裕一朗（にぶ ゆういちろう） 2014 年度就任



イエス団に入職して、はや 18 年が経ちました。最初の頃は右も左もわからず、ただただ毎日が刺激的で楽しかったことを覚えています。プライベートでは、周囲が海という環境もあって釣りやドライブをすることがよくあります。将来に向けて、ナオミ荘がすべての人たちにとってのホームとなれるよう努めてまいります。

瞳保育所

三谷恭子（みたに きょうこ） 2014 年度就任



イエス団との関わりは、1977 年～現在に至る迄の 45 年近く勤めさせていただいております。その中で、沢山のひととの出会いと多くの経験と学びをいただきました。何よりも大好きな子どもたちと日々楽しく過ごすことができていることに感謝しております。

イエス団の輪っ



社会福祉法人イエス団理事
イエス団神戸高齢者総合ケアセンター真愛
施設長 出上 俊一さん

「イエス団の高齢者事業の一翼を担って」

評議員の叶信治さんから、バトンを渡された「イエス団神戸高齢者総合ケアセンター真愛」（以下：真愛ホーム）施設長の出上俊一です。施設長を拝命してからそろそろ15年を迎えます。それまでは、女性の更生施設と特別養護老人ホームに勤めた経験があり、縁あってイエス団の輪に加わることになりました。イエス団の輪の中に入ると多くの事業、施設の活動があり、戸惑いを覚えましたが、高齢者施設は3ヶ所のみで、多くは子どもたちの施設や事業でした。ちょうど少子高齢化が叫ばれ、介護保険制度が生まれて10年たったころでした。

イエス団憲章にある「最微者（いと小さき者）に仕えるために」という言葉から、弱い子どもたちを守る事業が多いと感じていましたが、よく考えると、いと小さきものとは、小さい子どもたちだけではなく、弱い立場にあるすべての人に当てはまるのではないかと、人生の終わりに近づきつつある高齢者も弱い立場に立たされている人ではないかと考え、高齢者事業を充実させることに思いが至りました。

そこで私は、イエス団の中だけではなく、神戸市内で1番多くの高齢者のために事業を展開する真愛ホームを作り上げようと決意しました。そのために事業内容を精査し、弱い立場に立たされている高齢者のために何ができるかを考えました。

当時から介護保険制度の中で高齢者の終の棲家が大きな問題となっていました。介護を必要とする高齢者がなかなか特別養護老人ホーム（以下：特養）に入居できないという問題でした。そこで私は、1人暮らしの高齢者のための施設を作り、安心して介護を受けることができ最期の人生を過ごす終の棲家をできる限り増やそうと考えました。

まず、賀川豊彦が学んだ神戸神学校跡地のすぐ山側に空いている土地があることを知り、そこに特養ができるかを検討しました。真愛ホームのような大きな特養は無理でしたが、真愛ホームのサテライト特養なら可能性があることが分かり、計画を進め、2012年にユニット型小規模特養（総定員35名）「くもちホーム」を開設しました。これで真愛ホームと合わせて約131名の高齢者が入居することにな

りました。

次に、旧神戸中央市民病院の看護師宿舎が神仙寺にありましたが使用されていないため、何か利用できないかという話がありました。そこで改修すればグループホームができるのではないかと検討しました。検討の結果、そのとき兵庫区滝山町で特養を建設する計画が進んでおりましたので、グループホームの開設は困難という結論に至りました。2つの介護施設を同時に開設するには資金と人材の障壁があったからです。その時、サービス付き高齢者住宅という施設の設置に関する規制が緩やかになり、人材の面では余裕ができることがわかり、並行して計画を進めることにしました。

そして、神戸労災病院の山側に2014年5月、サービス付き高齢者住宅（定員27名）「レジデンス神仙寺 真愛」が誕生しました。半年後には兵庫区滝山町に3番目の特養（総定員99名）「たきやまホーム」も完成し、開設の運びとなりました。これでイエス団真愛の高齢者施設は「真愛」、「くもち」、「神仙寺」、「たきやま」と4施設の定員257名となりました。

休む間もなく、兵庫区荒田町の国有地の有効活用で高齢者施設を建設する事業者を募集していることを知り検討しました。この土地は「たきやま」と「真愛」の中間にあり、東山市場という賑わいの場所に近く、高齢者と真愛にとってふさわしいのではないかと思います、応募する決断をしました。審査の結果、これまでの実績が高く評価され指名を受けることができました。兵庫区の街中にある特養として建設すべく計画を進める中、医院の開設を望んでいる医師と出会い、特養の中に診療所を開設し、特養の常勤医師として働いていただくことになりました。高齢者の健康管理だけでなく、新型コロナウイルスが猛威を振るう中、先生の尽力を得られましたことは感謝に耐えません。

また、兵庫区の特養建設途中に神戸市が真愛ホームのある中央区の神戸高齢者総合ケアセンターの老健部分を医療型障害児入所施設、療養介護事業所等の施設として改装することになり、大規模な改修工事を行うことになりました。幸いにも真愛ホームの入居者の方々は、改修工事の間、2020年6月兵庫区に開設した特別養護老人ホーム（定員110名）「あらたホーム」で生活できることになりました。さらに、その間、真愛ホームの3階、4階部分の改修を行い、感染症対策ができる特養として新しく生まれ変わることができました。

結果として高齢者入居施設5か所、総定員数300名を超える神戸市でも有数の高齢者介護福祉事業を展開する組織体となり、賀川豊彦の「最微者（いと小さき者）に仕えるために」という言葉をささやかではありますが高齢社会で実証することができたのではないかと思います。

また昨年から、神戸市内278施設で構成する一般社団法人神戸市老人福祉施設連盟の理事長を拝命し、もう一つの大きな輪にも加えていただくことができました。これからもイエス団の一員としてこの「神の御業」を担ってまいりたいと思っています。

次号のバトンは、神崎清一理事にお願いしたいと思います。





京都ブロック 宇山光の子保育園 ^{さくら まなみ} 佐倉 愛美さん 「神様からの導き」

この度、くずは光の子保育園から「イエス団の輪」のバトンを受け取りました。宇山光の子保育園の佐倉愛美です。

短大卒業後、宇山光の子保育園に就職させて頂き、正規職員としてしばらく勤めた後、結婚、出産を経て、パート職員として働くことといたしました。しかし、やはり正規職員として働きたいという気持ちをずっと持っていました。ただ子育てと仕事の両立が自分に出来るのか、自分の子どもたちへの愛情をかけられる余裕がつかれるのか、子どもたちの体調などで職場の皆さんに迷惑をかけないか、すごく悩みました。そんな時、ある先生に「正規職員として働くことで、先生が子どもに愛情をかけられなくなるとは思えない。宇山光の子保育園で働く先生たちが、先生（私）が子どものことで休んだりすることを悪く思う人がいるはずがない」と言葉をかけて頂いたことがありました。有難いなと感じながら、この時このタイミングで自分がしたいと思っていた正規職員に戻ることが出来たことは、神様がいつもどんなときも私を見守って下さっていたからこそだと感じました。今年4月から正規職員として働き、心配していたことはなんだったんだろうと思うぐらい毎日充実した日々を送っています。私が受けた神様からの愛を保育に生かして、私がしてもらった様に、困っていたり悩んでいる人に手を差し伸べていきたいと思えます。こういった機会を頂き、振り返れたことはまた頑張ろうと思う力になりました。次回は神視保育園、野田先生にお願いしたいと思いますよろしくお願い致します。



四国ブロック 育愛館 ^{たおか みちよ} 田岡 美千代さん 「地域につながる子育て支援へ」

育愛館の保育目標のひとつである「地域とともに」を目指し、今は一時保育と支援センターを担当しています。保育指針が改訂されてから、保育園の役割としてのひとつに、地域に開かれた子育て支援が求められています。支援センターでは未就園児の子どもと保護者の居場所としてのひろば事業、発達の気になる子どもや保護者支援の相談事業も実施しています。

来館される保護者も子育てへの不安や悩みをかかえ、相談したり、保護者同士で話すことで心が軽くなって笑顔を見せてくれる様子を見えました。保護者の「ちょっと聞いてみたい」をしっかり受けとめ、いっしょに考える姿勢をもって、

これまでの育愛館の保育現場で培ってきた保育経験を生かし、発達や生活などの子育てで感じている保護者の不安や悩みの相談に、様々な情報提供しながら対応しています。時には、世間話で楽しく盛りあがることもあり、お母さんの情報に驚くこともあるくらいです。私自身、園内だけでなく地域へと目を向けていく子育て支援への思いをもって努めています。そんななか、ある研修で「園の親子とセンターに遊びに来る親子はどう違う？」の質問をなげかけられました。いろいろな意見もありましたが、「まだまだ保育園に通ってくる親子にしか目が向けられていないようである。両者にはなんの違いもない。いろいろな背景や事情をかかえ、子育てに奮闘している保護者である」との講師の厳しいことばに、園から地域とのつながりを含めて、広い視野での子育て支援について担っていこうと思います。その講師のことばを職員で共有し、職員一人ひとりの意識改革へとつなげています。

また数年前から、市内の支援センターと「さかいで地域子育てネットワーク（通称：きんときネット）」が立ち上がり、子育て支援の情報・意見交換、地域役員との意見交換会、地域行事の参加、地域の方とともに世代間交流の一環として、いろいろな大人と出会う子どもたちの居場所づくり活動を実施しています。地域行事には職員も交代で参加するなど、関係をつなげていく機会も持っています。まだまだ始まったばかりのネットワークですので、今後の活動の展開についてや、居場所についても、集える子どもだけでなく、様々な困難な状況で交流の場に出てこれない保護者や子どもにもどう気づき、支援していけるかといった課題もありますが、地道な活動の継続により活発なネットワーク活動を行っていこうとしています。

そして、このつながりを得て、保護者からの相談内容に応じて、関係機関につなげることがスムーズにおこなえるようになり、その後の情報交換や情報共有をしながら、かわりが継続できるようになってきました。

また、育愛館の子どもたちも、地域の老人会の方々と年2回、公園整備の花の苗植え活動に参加しています。今では、園外保育に出かけた際に、元気にあいさつを交わしたり、声かけしてもらって交流が少しずつ広がっています。これからも地域に開かれた子育て支援を目指して、職員と何が出来るか、何をしていくべきかを考え合って実践していきたいと思えます。

次は、豊島ナオミ荘さんにバトンをつなげていただきます。よろしくお願いします。



大阪ブロック 聖浄保育園 ^{はにおか よしのり} 壇岡 義範さん 「僕は納豆が苦手です。」

馬見労務保育園さんよりバトンを受け取りました。男性保育士でやっと20年、ざっと今までの歩みと出来事を――。

- 夜間学生時、一年間保育園に勤めたら実習免除ラッキー！ということで、3月末に片っ端から認可園に電話し、唯一OKだったのが聖浄保育園（実習には行かせてもらいました）。
- そして、1歳児になめられまくった一年目。
- なめられまいと、カラ元気とただただ怒ることで力量不足をカバーしてしまっていた二年目。
- あいさつの声が大きすぎたのか保護者に嫌われ事件。
- 消火器ぶちまけ事件。

- 隕石事件
- 発泡スチロールそうじ機破壊事件。
- 参観でお母さんが似顔絵ビリビリ事件。
- のぞみ保育園に二年。
- 天隣乳児保育園(現、神視保育園)に二年。
- 花火まとめて着火爆発事件。
- ととききギックリ腰。

一と、なんやかんやで今に至ります。

その中で出会った子ども達や保護者、職員の方々は、年齢やキャリアなんぞ関係なく、人として尊敬できる魅力的な人ばかりでした。

てなことは、建前であって、もちろんちょっと、、、という方もそらいます。しかし、だめなところをみるよりも、良いも悪いも様々な考え方に触れ、いかに自分の学びに出来るか。次に、未来に向けてどうよりよくつなげていくか。の方がよっぽど豊かだと思うのです。

イエス団の共感できる考え方の一つに、その人の持つ弱さや抱えている困難を“痛み”と表現するところがあります。その人の“痛み”は何なのか？いったいどこからくるものなのか？自分の“痛み”ってのはたして、、、？

あっそうそう、「僕は納豆が苦手です。」どうしても仲良くなれない…みんな友達なんて幻想だー！いやいやそんなことを言いたいんじゃないで、好き、苦手、得意、不得意って誰しもあって当たり前。では、どう付き合っていくか、保「せんせい今日納豆一粒食べるもんねー。」子『こっちだって二粒食べるしー。』保「じゃあ、せんせいだって三粒いくわー。」、苦手な者同士の小競り合ひって地獄、納豆の苦手な先生でいいし、走るの苦手な〇〇くんがいいし、絵の苦手な△△ちゃんがいい。それらひっくるめて認め合える空気感をつくれるように。

「僕はアウトドアが大好きです。」美しい清流でぶかぶか。自然の中で遊んでいるという感覚より、自然に遊ばせていただいている。の方がしっくりくる感じ。園でダンゴムシやチョウをつかまえた時も最後には「遊んでくれてありがとう。って自分の家族のどこへ戻してもらえたらどんな気持ちだろう？」と伝えます。気持ちにも自然の命のつながりにも思いを馳せて大切にできるように。

これらはMS2009につながりがあり、考えを押し付けるのではなく、様々な人の考えに触れ、心が動く体験を。失敗を宝物として捉え育ち合える仲間を(それは大人も)。そして、様々な“痛み”をキャッチできる心を。それらが、将来、社会に出て壁にあたったときに自分はどうしたいか？と考えるちからとなっていくほしい。僕は今までのたくさんの人の考えが合わさって、ここまで大きくしてもらいました。まさに今の自分を形作ってくれていると感じ感謝しています。だからこそ、今までもこれから出会う人たちと共に、新たな未来をつくりだしていきたいと考えます。最後まで読んでいただき感謝です。さーて次回は、ガーデンロイさんにバトンを渡したいと思います。よろしくお願いします。



兵庫・東兵庫ブロック みどり野保育園 不破 あかりさん

「いまの私をつくるもの」

この度、二宮保育園から「イエス団の輪っ」のバトンを受け取りました。みどり野保育園の不破あかりです。お話を頂いた

時は、若輩者の私を書いてもいいのかな？と思ったりもしましたが、ここで改めて自分の事を振り返ってみるのもいいかと思い、この機会に感謝して書かせていただきます。

自分を振り返ってみて最初に考えたのが「どうして私はここで働くようになったのかな？」ということです。思い返せば、絶対に保育士になる！と決めて学生時代を過ごしてきたわけではありませんでした。助産師になりたかったり、インテリアデザイナーになりたかったり、その都度、様々な出来事に影響を受けながら様々な夢を持って生きてきました。そのような中でも保育士になりたいという選択肢はいつも自分の中にありました。最終的に子どもが好き、子どもと関わる仕事がしたいという思いが強くなり、保育士の道に進みました。しんどいことは多いですがこの選択に後悔はありません。保育士になり、どこで働くかを考えた時に真っ先に考えたのが母園であるみどり野保育園でした。その時にイエス団という存在を知り、私はイエス団の一員になりました。思えば、これも全て神さまのお導きだったのかもしれない。

乳幼児期というのは人生の基盤を作る大切な時期であるということは、保育を学んできた方ならよくご存知だと思います。子どもの頃に見た事、聞いた事、体験した事は大人になった自分の感じ方、考え方、仕事などに大きく影響してくるものだと思っています。私自身もそうです。みどり野保育園で過ごした記憶はずいぶん昔で忘れてしまったものも多いのですが、キリスト教に関することは不思議とよく覚えていました。歌った賛美歌、食前のお祈りの言葉、クリスマス会でのオラトリオ、それから、神さまはいつでも私たちの傍にいてくれるということ。子どもの頃は特別な思いを感じたりなどはなく、そういうものだと思って聞いていたのですが、大人になってから思い出した時にとても助けられました。落ち込んだ時、しんどいときに神さまが傍にいてくれることを思えば前を向くことが出来たのです。キリスト教保育の中で過ごした幼少期の経験は今の私を形作るかけがえのない物であると思っています。今度は私がその経験を形作っていく番です。私を育ててくれた先生たちがたくさんものを私に与えてくれたように、私もここに集った子ども達にたくさんものを与えていきたいと思っています。

保育士になってからはとてもいい人間関係に恵まれ、楽しい毎日を送っています。保育士という仕事は毎日発見の連続で奥の深い仕事だなあと感じながら働く日々です。

2年前、1年目に出会った子ども達が卒園しました。個性豊かな子ども達でいつも私と悩んで、考えて、面白いことを見つけてながら一緒に保育を作ってきました。神さまがみどり野保育園に集めてくれたこの子たちとの出会いも私をつくるかけがえのないものになっています。

ここ数年は感染症が流行したり、戦争が起こったり、世間的にも苦しい年が続いています。人とのつながりが希薄になり、孤独を感じやすくなった世の中は子どもも大人もとても生きづらいなと感じます。そんな時だからこそ、神さまとのつながりを思い出し前を向いていくことが出来たらいいなと思っています。私たちの保育を通して、子ども達がそれを思い出せるきっかけになればいいと願っています。

次は甲子園二葉幼稚園にバトンを繋ぎさせていただきたいと思っています。よろしくお願いします。

「イエス団の輪っ」と題してリレー形式での投稿です。理事・評議員から一人、一般職員は、各ブロックより一人ずつ寄稿して頂きました。

12回目の今回は、評議員の叶信治さんから、理事の出上俊一さん。京都ブロック：大森郁美さん(くずは光の子保育園)から佐倉愛美さん(宇山光の子保育園)。四国ブロック：田窪有希子さん(神愛館)から田岡三千代さん(育愛館)。大阪ブロック：西井裕美子さん(馬見労務保育園)から埴岡義範さん(聖浄保育園)。兵庫・東兵庫ブロック：小井手佑圭さん(二宮保育園)から不破あかりさん(みどり野保育園)でした。ご投稿くださった皆様ありがとうございました。次回のバトン先の方々もよろしく願いいたします。

J. B. フェローズ活動報告

兵庫ブロック

① ブロック交流会

一昨年、昨年度に引き続き中止としました。交流会を開催できた時には、新たな職員との出会いや園紹介、懇親会を通して、より深く兵庫ブロックで関係を築いていきたいと考えます。

② 施設訪問研修

二宮保育園が11月22日、のぞみ保育園が来年1月18日に開催予定です。

③ 給食室研修

神視保育園が来年1月25日に行う予定です。

④ 東日本復興支援Tシャツ・ポロシャツ・パーカー・トレーナー申し込みについて

サックス色をTシャツのカラーに追加しました。

⑤ 長島愛生園・豊島

それぞれ研修は中止ですが、引き続き情報交換をしていきます。

⑥ 冊子作り

今年も引き続きコロナ禍での保育や行事等をどのように工夫しているかを共有し合いました。

今年度も残念ながら色々な取り組みは中止になりました。一昨年度から始めた冊子作りによって、直接の情報交換は出来なくても各施設でどのような工夫をしているのかと様々なことを知ることができました。新型コロナウィルス感染症の予防や防止によって、制限されることもまだ多くあります。ですがマイナス面だけでなく、コロナ禍だからこそ子どもたちと経験出来ることがあると施設間で共有できたことも、大きな気づきとなりました。

報告：兵庫ブロックリーダー
友愛幼児園 碓氷 晴佳

京都ブロック

2022年度のJBフェローズ京都ブロックの活動は、

- ① 「発達障がいに関する意見交換会」
- ② 「給食に関する意見交換会」
- ③ 「豊島研修」「長島愛生園研修」
- ④ 「JBF京都交流会」

の4つの活動を予定していましたが、コロナ対策の為、中止しました。代わりに今まで研修会をさせて頂いた豊島の物産や、熊本の「たんぼぼハウス」の商品を保護者や卒園児保護者に購入して頂きました。また来年2023年2月25日・26日には、豊島の方々と一緒に草刈りを予定しています。

今年度は、コロナを理由に試行錯誤することもせず、「コロナだから・・・」と思考停止していたところがありました。

来年度はこのような行き詰まった状況でこそ、そこから逃げずに、より柔軟に。より幅広く。より臨機応変に活動して行きたいと思います。困難な状況を前に、「悩む力」「葛藤する力」を「気づく力」「試行錯誤する力」「関わり続ける力」そして「ともに生きていく力」に変換して続けて行きたいと思います。

報告：京都ブロックリーダー
宇山光の子保育園 荒木健

大阪ブロック

2022年度の大阪ブロックの活動

今年度はコロナ禍になって2年間、大阪ブロックで職員間の交流ができていなかったため初めてオンラインでの会議を開催いたしました。話し合いの中でコロナ以前まで行っていた、公開保育や給食の先生の交流会はまだ難しいとなりましたが、子ども達とは関わらず施設見学会を開催予定です。

① オンライン会議

7月5日

今年度の活動について話し合い、今年度のJB担当者の交流を行いました。

② 施設見学会

9月天使保育園にて実施予定

コロナ第7波の為延期。現在(11月)日程調整中。天使保育園の新園舎見学会後、会議を行い、これからどのような活動、交流をしていくか話し合う予定。

③ 大阪職員通信第24号(1月発行予定)

内容：・各施設の取り組み紹介
・キリスト教Q&A

報告：大阪ブロックリーダー
天使保育園 阪田将

四国ブロック

コロナ禍で、まだまだ実際に集まるのは難しいため、ZOOMでオンライン会議を行いました。ZOOM会議では、各施設のJBフェローズ担当者との顔合わせや、今年の活動について話し合いました。そして今年度の活動として、毎年恒例となっている次の年のカレンダーをそれぞれの施設で製作してもらい、出来上がった作品を各施設で送りあう「製作カレンダーの交換」をしようということになりました。また、カレンダー製作中の様子や、送りあった後に各施設で作品を見て楽しんでいる様子を写真で撮って共有できたらと考えています。

コロナ禍で県をまたいでの移動が難しい中、他の施設で作った作品や写真を見ることで離れていても、他施設の子どもたちや利用者の方々を身近に感じてもらえればと思います。コロナウィルスの流行によって今まで通りにいかず思い悩むことも多かったと思います。これからもJBフェローズの一人として思いを共有し合い、助け合っていたらと思います。

報告：四国ブロックリーダー
光の子保育園 小野陽子



表紙写真の解説



編集後記

2022年2月24日に始まったロシアによるウクライナ侵攻、その終わりは未だ見通せず世界中の平和への願いもむなしくクリスマスを迎えることになりました。日本でもこの情勢に対する不安をあまり、敵基地反撃能力を保有するために軍事費を増強することを首相が表明しました。先のイエス団報26号(臨時特別号)でも詳しく述べられていますが、日本には多くの米軍基地が存在します。さらにミサイルを増強すると、それは抑止力ではなく標的になる他ありません。無関心が最大の罪。私たちができることは何でしょうか？しっかりと考えるときです。

一方、新型コロナウイルス感染症もオミクロン系の変異を繰り返しながら感染をを広げ続け、国内感染者累計27,187,394人、国内死者累計53,499人(2022.12.19現在)となり、収まることなく4回目の冬を迎えます。私たちは粛々と感染対策をし続ける他ない状況です。今年夏の甲子園で優勝した仙台育英高校の須江航監督が「青春ってすごく密なので」という言葉をおっしゃっていましたが、「福祉ってすごく密なのに」と思われた方々も多いのではないのでしょうか？社会的距離を取る事による弊害が散見されるようになってきました。身体の距離は取っても、心はしっかりと寄り添いたいと思います。不安や困難を覚えつつ過ごした2022年、喜怒哀楽様々な出来事がありましたが、イエス団各施設と職員の皆様のはたらきをこのイエス団報27号に記し、113年前賀川豊彦が一人スラムに献身したこの創立記念日、クリスマスに発行できますこと、神さまの導きとイエス団に連なる皆様のご協力に感謝いたします。皆様の上に主の守りと豊かな祝福がありますように。

Merry Christmas! and a Happy new year!

イエス団報編集委員会

キャプション (写真上から①～⑧の順)

- ① カタツムリ「歩くけん、見よってな」
【光の子保育園】
- ② 施設内の花壇です。季節毎に子ども達と植え替えをしています。
【ガーデンロイ】
- ③ 0歳児クラスの一コマ。自然と輪ができ、楽しそうです。
【光の子保育園】
- ④ 異年齢生活ぐる一歩で「丸くなって話合い」
杉の子版シチズンシップ
【杉の子保育園】
- ⑤ 地元漁協のお誘いで、クエの稚魚を放流しました。
サステナブルな漁業資源のお話も聞きました。
【みなべ愛之園こども園】
- ⑥ 収穫感謝礼拝の後、5歳児クラスが消防署を訪問した帰りに賀川豊彦生誕100年記念碑に行きました。
4本の柱の話を伝え、説明文のパネルをのぞき込み自分の服の袖で拭いている子もいました。
【友愛幼稚園】
- ⑦ 児童館のイベントでスーパーボールすくいをして遊びました。
【港島児童館】
- ⑧ 川遊び「川はどこに繋がっているのかな？たくさんの生き物のために私たちに何ができるかな？」
【甲子園二葉幼稚園】

表紙では M.S2009 の取り組みを象徴する写真を募って掲載させていただいております。素敵な写真を提供くださった皆様ありがとうございました。

